

NEWS RELEASE

2019年5月15日

日本豆乳協会

SOY1904

日本豆乳協会

2019年1-3月期の豆乳類の生産量が88,084kℓ、

前年同期比112.5%を達成、

～豆乳飲料の110.7%を中心に、2008年より、継続的に成長を更新～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）では、2019年1-3月期における豆乳市場の動向について、分析しました。その結果、豆乳（無調整）及び調製豆乳がそれぞれ、106.1%の伸びを示し、全体で88,084kℓ、前年同期比112.5(%)の伸びを記録しました。このように豆乳の生産量は、すべてのカテゴリーにおいて、引き続き市場が伸長していることが確認されました。

豆乳協会では、定期的に「豆乳等生産量等調査*」を実施し、豆乳（類）市場の動向を確認しています。1-3月期における国内の豆乳生産量を種類別にみると、豆乳類の中で最も生産量が多い調製豆乳の生産量は45,284kℓ、前年同期比106.1(%)でした。また、近年拡大傾向にある「豆乳（無調整）」の生産量は22,168kℓ（106.1%）で、前年同期を上回り、大きく成長しました。また、「豆乳飲料」は、果汁入りが3,383kℓ（110.7%）と最も大きな成長を示し、紅茶やコーヒーに代表されるフレーバー系のその他豆乳飲料は、12,279kℓ（105.3%）という結果になりました。その他、豆乳クリームをはじめ、豆乳ヨーグルトや豆乳鍋などの原材料としての豆乳である「その他」のカテゴリーでは、4,969kℓとなりました。

この1-3月期においては、いずれの種類においても、前年同期比を上回っています。引き続き、豆乳（無調整）や調製豆乳が伸びている要因は、健康志向の高まりから、飲用としてはもちろん、豆乳協会が提案している料理に使用する豆乳の需要が伸び、日常的な利用者が拡大していることが挙げられます。なお、当該期においては、メーカー各社が「マカダミアナッツ」や「マカダミアチョコ」、「ラムレーズン」等の新たな豆乳飲料の商品開発を行い、新商品の提供を開始したことも、増加の要因のひとつになっています。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2016年2.5ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発活動を展開しています。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/平井

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017